

2019 年度
東京外国語大学建学 150 周年基金
活動報告

2020 年 6 月
東京外国語大学

東京外国語大学建学150周年基金の趣旨にご賛同いただき、心より感謝申し上げます。

皆様からのご支援は、学生への奨学金給付や海外派遣支援、学生団体の活動助成、外国人留学生の受入支援、就職支援、教育環境整備、研究活動支援など、さまざまな支援事業に活用しております。

皆様からの温かいご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2020年6月

東京外国語大学長 林 佳世子

【目次】

活動報告	1
収支報告	2
寄附者の声	3
支援を受けた学生からのメッセージ	3
2020年度支援事業計画	5

【活動報告】

2019 年 11 月に、過去にご寄附頂き今尚繰越残高のある基金を暫定的に統合し、さらに「建学 150 周年基金」の募金活動を終了する 2023 年に同基金と「暫定基金」を統合して一つの基金として纏める方針についてご報告いたしました。併せて、ご異存、ご意見ある場合はお知らせ頂きたい旨お願いしましたが、その後、特段のご意見が寄せられなかったことから、以下のとおり実施致しました。

引き続き、東京外国語大学の教育・研究の更なる発展、充実のために、皆様からのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたします。

現行基金		統合基金		新基金	既存基金				
スカラーシップ基金		29,321,901	Ⅲ 積立基金	108,930,812					
岩崎民平基金		52,458,762							
百周年記念教育研究振興基金		79,608,911							
教育研究振興基金		-							
①	教育研究充実支援	25,670,287	Ⅰ 修学支援	70,783,748					
②	教育研究充実支援(池端学長)	300,000							
③	教育研究充実支援(ロシア語)	752,310	Ⅱ グローバル・キャンパス支援基金	①教育支援	53,589,891				
④	国際交流支援	25,242							
⑤	研究支援	49,590							
⑥	学生支援	2,700,000							
⑦	東南アジアからの留学生への奨学金	4,640,000							
⑧	課外活動助成金(橋本元理事)	178,725							
⑨	課外活動助成金(端艇部)	152,135							
⑩	学内環境整備支援(異文化交流施設)	8,325,624							
⑪	東京外語会寄付講座	395,631							
⑫	グローバル人材育成	31,883,492							
計		80,655,969		②研究支援	65,493,495				
国際教育支援基金		63,443,748							
建学150周年基金		245,621,193							

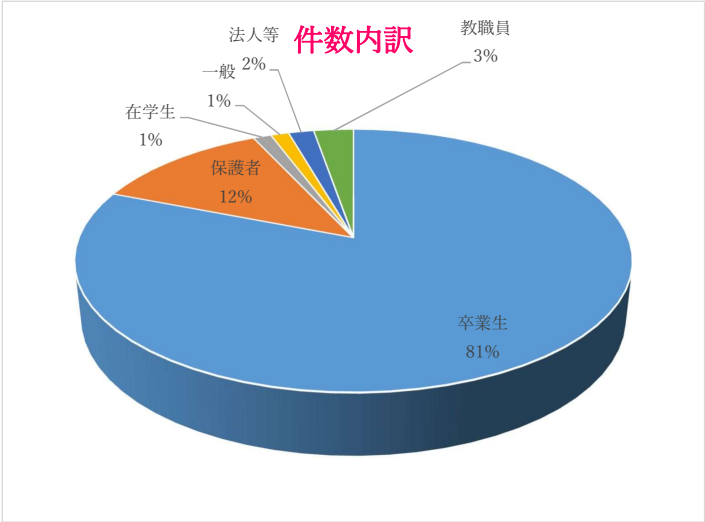
【収支報告】

(単位：円)

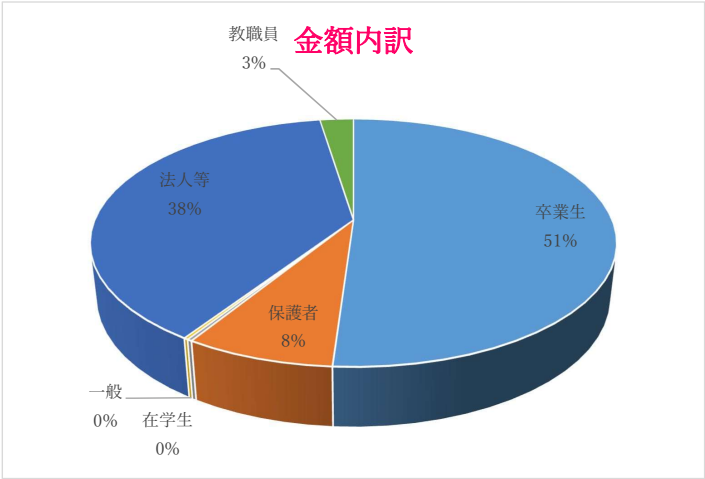
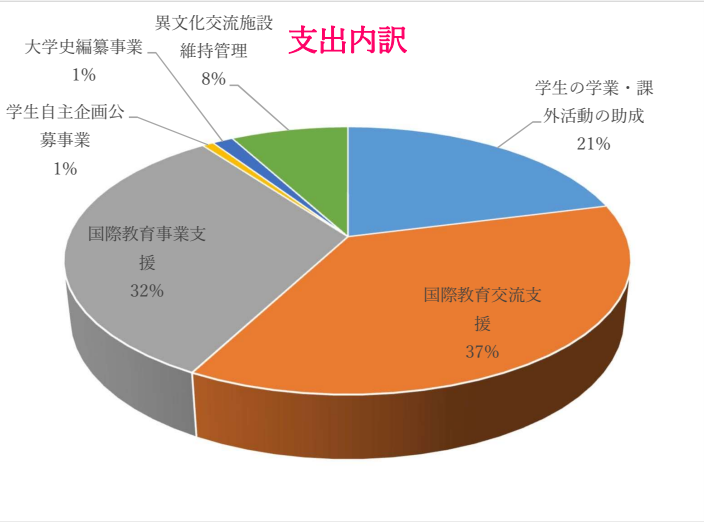
令和元年度 期首残高	収入額	運用利息	支出額	令和2年度 繰越
539,468,507	35,189,916	504,269	28,933,619	545,527,551

(注) 東京外語会及び学生後援会から基金を通さず大学に直接ご寄附頂きました金額や、学生に直接ご支援頂いた奨学金等の金額は含んでおりません。

＜収入＞



＜支出＞



区分	主な使用	金額(円)
学生の学業・課外活動の助成	英語の自立学習を支援するため、スピーキング・セッション、多聴・多読プログラム、オンライン学習プログラム等の多様な学習の機会を提供、多読資料となる図書などの購入。 毎年11月下旬に開催される外語祭(学園祭)での語劇への助成、毎年6月に埼玉県戸田公園競艇場で開催されるボート大会の運営支援。 大学公認の各部、サークル活動などのクラブ活動支援。 学生の進路指導に必要な資料購入、各種セミナー等開催に係る経費。	6,085,061
国際教育交流支援	「21世紀の地球社会と対話し行動する東京外国語大学」(“TUFS-InterACTing with the Global Society”)の基本精神にのっとり、言語や文化的な背景の違いをこえ本キャンパスに学ぶ優れた学生(日本人学生・留学生)に対する奨学金の支給、海外派遣などの幅広い支援事業。	10,629,356
国際教育事業支援	学生の英語力を診断するTOEIC-IPテストを受験することにより、学生の英語力の伸びを測定するための実施に係る経費。	9,291,663
学生自主企画公募事業	・世界の諸地域の言語・文化・社会に関する大学での学びを社会で活かす実践力を獲得すること。 ・社会における異文化理解が促進されること。 ・社会と連携して一つの活動を作り上げることを通して、学生のみなさんが企画力、コミュニケーション力、コーディネーション力、行動力といった社会力を獲得すること。学生生活が充実した活力あふれるものになること。を目的とした、学生による自主的かつ創造的な多文化共生活動の支援。	222,750
大学史編纂事業	大学史編纂・刊行のため経費。	406,409
異文化交流施設維持管理	外語際の語劇、イベント等で使用するアゴラ・グローバルプロメテウスホールの維持のため、保全業務を実施するための経費。	2,298,380
合計		28,933,619

区分	件数	金額(円)
卒業生	327	17,966,411
保護者	49	2,737,000
在學生	5	90,000
一般	5	76,505
法人等	7	13,455,000
教職員	11	865,000
合計	404	35,189,916

【寄附者の声】

民間に始まり国際機関で20年余を過ごした勤務人生の記憶は、中東、アジア、太平洋州の任地と共にあります。転勤のたびに生活上欠かせないのが、新任地の価値観を正しく理解すること。その土地の価値観を多面的に分析し、最も適切に教えてくれたのは、その国の人々のために様々な分野で貢献する、東京外国語大学の卒業生たちでした。時には厳しい生活環境の下で、母校で学んだ言語、文化、社会を基に働く彼ら彼女らのますますの活躍を祈るとともに、出会えたことに感謝し、恩返しとして建学150周年基金への寄付を思い立ちました。

次世代の在校生の日本と世界を結ぶ夢の実現に、寄付がお役に立てば幸甚です。

一方、コロナ禍の影響はまだ続いています。大学は建学基金を原資に、経済状況が悪化した学生へ緊急無利子貸与奨学金を設置しました。一人でも多くの在校生が、望み通り学び研究を継続できるよう、今年も基金に寄付を続けたいと思います。

須崎 彰子様（1982年 アラビア語科卒業）

【支援を受けた学生からのメッセージ】

皆様方からのご支援をいただき、TUFS 多文化共生学生自主企画事業を実施いたしました。

活動内容・成果を紹介させていただきます。

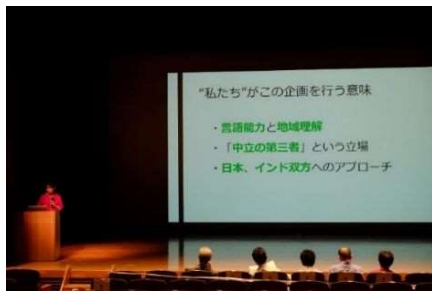
ご支援をいただきまして、ありがとうございました。

＜2019年度 TUFS 多文化共生学生自主企画事業の概要＞

本事業は、学生の自主的かつ創造的な多文化共生活動を支援するために、今年度より開始された制度です。

学生が日頃の授業の中で学んだことを実践し、またそれを社会に還元することにより、社会人となった時に必要な力を身につけていくことなどを目的としています。

今年度は、第一次審査の書類審査、第二次審査のプレゼン審査により、次の3つの団体が選ばれ、半年をかけて企画を実施していきました。



第二次審査のプレゼン審査の様子



報告会の様子

●国際連携企画

チーム・さち「インドでパキスタンの物語を読み聞かせ」

＜実施内容＞

今回の企画では”The greedy Kashmir”と”シェイフ・チリと不思議な木”という、共に南アジアのムスリムに根付く物語を紙芝居の題材として、明星学苑高校および横浜国際高校にて出張講義を開催した。また「インドへのステレオタイプの打破」を目的として東京外国語大学でもワークショップを開催した。高校生と外大でのワークショップ参加者に紙芝居を作成していただき、合計5作品を完成させた。作成した紙芝居は、デリーのジャワハルラー・ネルー大学の日本語専攻も学生と協力し、ヒンディー語訳した上で、インドの小学校および児童養護施設にて紙芝居パフォーマンスを行った。日本の保育園への紙芝居配布に関しては、現在受け入れ機関を探している段階である。

＜活動成果＞

日本においては上述の通り明星学苑高校と横浜国際高校での出張講義および外大でのワークショップを開催し、全5作品の紙芝居を作成した。出張講義参加校が2校しかなかったという点については大きく目標を下回った。主な要因としては、どの高校も通年カリキュラムの中で動いており、参加することが難しかったということが挙げられる。一方で参加していただいた2校は国際に力を入れている学校で、自由参加であったものの、多くの生徒が参加してくれた。

インドにおいては小学校、児童養護施設の合計で3校/施設でパフォーマンスを実施した。日本人が紙芝居という初めて見るパフォーマンスをしていることもあってか、子どもたちは大変興味を持ってくれた。実際に活動する上でチーム一同感じたことは、社会課題に取り組むことの難しさ、そして重要さだ。企画実施期間中インドでは政府による市民権法改正を発端にヒンドゥー・ムスリム間の対立がさらに強まった。企画を進めていく中で、センシティブな問題である宗教問題にアプローチしていくことに恐れを感じたこともあった。しかしセンシティブな問題だからこそ、チームを上げて勉強し、工夫をして取り組んでいくという姿勢を身につけることができた。この姿勢を忘れずに、さらに企画を進めていきたいと考えている。

●地域連携企画

アジアフリカ 5 回生「“食”を通じて世界と繋がる！」

<実施内容>

2019 年 11 月～2020 年 1 月の間に月 1 回、計 3 回のこども食堂を開催した。各回とも異なる国の留学生や協力団体と連携してイベントの運営を行った。

<第 1 回（2019 年 11 月 17 日）>

○実施概要

場所：あおば子どもの居場所（府中市）

料理：インド料理 4 品（チキンカレー、ホウレン草豆カレー、グラブジャムン、ラッシー）

人数：参加者 37 名（子ども 9/大人 28）、運営側 5 名

留学生：1 名（インド出身）

<第 2 回（2019 年 12 月 11 日）>

○実施概要

場所：常照寺てらこや食堂（横浜市）

料理：フィリピン料理 1 品（アドボ）

アクティビティ：バンブーダンス、英語のクリスマスソング合唱

人数：参加者多数、運営側 7 名

留学生・教師：2 名（フィリピン・インド出身）

<第 3 回（2020 年 1 月 13 日）>

○実施概要

場所：府中市市民活動センター料理教室（府中市）

共催：NPO 法人シェアマインド

料理：アフリカ料理 4 品（ブリック、トマトシチュー、ウガリ、パイナップルジンジャー Juice）、インド料理 2 品（グラブジャムン、マンゴーラッシー）

アクティビティ：留学生の母国紹介、共催 NPO 団体によるフードロスに関するプレゼンテーション、ガーナの手遊び

人数：参加者 20 名（子ども 8/大人 12）、運営側 17 名

留学生：4 名（コンゴ・ガーナ・スイス・インド出身）

<活動宣伝>

- ・Facebook
- ・Instagram
- ・Twitter

上記 3 つの SNS を用いて、各イベントの一般参加・協力の募集や実施報告を行い、当団体の活動を広く社会に発信した。第 3 回目の当団体主催イベントにあたっては、学内掲示板や開催場所の府中市市民活動センターにポスターやチラシを掲載した。

<イベント終了後>

○アンケートの実施

こども食堂開催後、必ず参加者を対象にしたアンケートを実施した。大人用と子ども用、紙とオンライン等に内容や媒体を分けて作成し、できるだけ多くの回答を得られるように工夫した。実際に、毎回半数以上の参加者にアンケートの協力を頂けた。アンケートの結果、全ての回で「大変満足」「満足」の感想が 9 割以上を占めた。

○チェキ写真・アルバム・レシピ配布

子どもたちに食事前に撮影したチェキ写真をプレゼントし、協力団体・留学生には写真や当団体メンバーからの寄せ書きを記したアルバムを贈呈した。思い出に残るものだと、大変好評だった。また、家庭の食卓でも自然に外国の話ができることを期待して、各回で提供した料理のレシピを作成し、参加者全員に配布した。

<特記事項>

・第 1、2 回は定期的にこども食堂を開催している地域団体と連携し、外大生とのコラボと題してイベントを行った。しかし、第 3 回は当団体が主催者であったため、打ち合わせや段取り、開催場所、一般参加者募集などゼロからイベントを作り上げた。

<活動成果>

当団体は、企画実施前に①普段知らない世界を身近に②留学生に日本の現状を知ってもらう③こども食堂と貧困家庭の子どもの繋ぐ④社会課題への関心を仰ぐ、という 4 つの目標を掲げていた。これらを踏まえ、実際の活動による具体的な成果は、大きく分けて以下 3 点だと考える。

1. 子どもたちの外国に対する意識変化
2. 留学生の母国と日本文化への理解向上
3. 外大生と地域住民の交流促進

1. 子どもたちとの対話やアンケート結果から、留学生との交流や外国の食事を通して、外国の文化がより身近になったことが分かった。イベントで初めて外国人と触れ合ったという子どもや、次回は他の国の料理も食べてみたいという子どもがいた。普段海外との接点がある子どももそうではない子どもも、「外大生×こども食堂」に参加したことで世界への扉がわずかに開かれ、異文化の壁を崩し始めたはずである。

2. これに関しては、以下イベント参加留学生のコメントから理解できる。

「このイベントのことを初めて聞いた時とても感激しました。この活動は、誰かひとりではなく、地域コミュニティ全体にとって役立つものと思ったからです。アフリカについて、参加者の皆さんが関心を持ってくださっている様子が伝わりとても嬉しかったです。自分の国コンゴについて皆さんに知ってもらう機会があり良かったです。このイベントを通して、心をひらいて周りの人から学ぶ姿勢を大切にすることが、重要であると分かりました。日本人の皆さんと一緒にイベントをして料理をして、その平和的な雰囲気からわたしも日本の文化を学ぶことができたからです。イベントに招待していただき、私の大好きな祖国の味「ウガリ」をシェアさせていただきありがとうございます。帰国する前にもう一度子ども食堂に参加できたらうれしく思います。」（コンゴ民主共和国出身留学生のコメント抜粋）

このように、留学生が当団体こども食堂開催の意義を理解し、自国を見つめ直し日本の文化をより深く学ぶきっかけを与えることができた。

3. この点は当初想定していなかったが、外大生によるこども食堂開催の反響が非常に大きかった。協力団体のスタッフの方々からは「外大生が橋渡し役として留学生を繋いでくれたおかげでこども食堂がグローバルになった」、一般参加者の方々からは「もっと外大生と話したい」などのお言葉を頂いた。こうした声から、外大生だからこそ貢献できる部分の幅広さ、「外大生」に対する外部の方々の注目や関心

が意外と高いことが分かった。外大生が地域住民と関わることで、外国の言語や文化の知識や海外生活における知見を活かせることはもちろん、新たな交流による地域の発展や活動範囲の拡大に繋がる可能性を見出した。

今回の多文化共生企画において、日本の「国際化」と「子どもの貧困」に目を向けた活動に取り組んだ。「国際化」の問題に対応するにあたって、日本人が外国の人々や文化を正しく理解し、友好的な交流による相互理解が重要であるという認識を持って活動した結果、上記のような成果が得られた。しかし、「子どもの貧困」というもう一つの社会課題に対しては思う通りのアプローチは出来なかった。というのも、「こども食堂」それ自体の意義に二面性があるからだ。一般的にこども食堂は、「こどもの孤食を防ぐ」と「貧困の子どもたちに食事を」という目的が大きく二つある。両方が目的の場合とどちらか一方の目的の場合があるが、それは団体によって異なる。「こどもの孤食を防ぐ」目的の中には、地域のつながりをつくることや、食事を作る親の負担軽減も定義に含まれる。3回実施したこども食堂の中で、1回目を除いて、参加した子どもたちは貧困家庭というよりは比較的裕福な家庭出身であるように見受けられた。つまり、企画の対象者を「貧困家庭の子ども」と設定したところで、基本的に参加する子どもたちは連携する団体の活動理念や内容に依拠するため、その点を考慮して選定しなければ本来のターゲットに届きにくい。さらに、自分たちが主催者となる場合、参加者を意図的に絞ることは現実的ではないと気づいた。したがって、もし今後も「外大生によるこども食堂」の活動を継続させていくとしたら、目的を再定義し、対象である「貧困家庭の子どもたち」にフォーカスした団体と連携する必要性を実感した。

●地域連携企画

TUFS 防災隊「すべての人が安全に避難できるような防災対策」

<実施内容>

- ①NPO 法人地域教育ネットのサポートのもと府中市内の中学校を定期的に訪れ、まず中学生との距離を縮めた。彼らと接していくうちに、講演会よりもゲーム感覚で楽しんで防災対策を伝えることの方が効果的と感じた。そのため、最終的に脱出ゲーム形式の防災ゲームを作成した。このゲームは、安全に避難できることをゴールとし、その途中で起こり得る様々なトラブル（ドアが開かない・困っている外国人に英語で話しかけられたなど）をどう対処すべきかを本人たちに考えさせるものである。
- ②府中市内の外国人を国籍別で調査し、需要が多いと思われる韓国とタイの人々に向けたパンフレットを作成することにした。また、これらの国の人々は自国での地震経験に乏しいと推測できるためパンフレットの必要性を特に感じた。既存の防災パンフレットで得た知識をもとに、簡潔でわかりやすい際に役立つパンフレットを作成した。

<活動成果>

- ①中学生が楽しんで活動に取り組んでいた。また中には防災ゲームで扱った、災害用伝言ダイヤルに対してその存在を知らなかったという生徒もあり、情報を少しでも認知させることができたのではないかとされる。子供目線から防災についての意見が出ることもあり、私たちにとっても新たな発見につながるが多かった。今回の機会が多く生徒たちの防災についての関心を持つきっかけを提供できたと実感している。また、地域の NPO 団体とともに試行錯誤しながらプロジェクトを起こすことができたことで、私たちも地域を通して防災について身近なものとして考える良い機会となった。私たちの活動が地域に還元できたことを嬉しく思う。
- ②既存のパンフレットを噛み砕いたパンフレットを作成できた。シンプルなため、以前より戸惑うことも少ないと感じる。少しでもわかりやすく理解してもらえるよう工夫を凝らし図式に表した点などを評価された。

【2020 年度支援事業計画】

(金額：円)

事業計画	執行予定額
LINGUA事業	2,500,000
令和2年度入学生に対する被災者支援奨学金	4,089,000
TUFS多文化共生学生自主企画公募事業	900,000
アゴラグローバル維持管理	2,193,300
東京外語会寄附講義	180,000
TOEICーIP実施に係る業務補助経費	2,236,865
国際教育支援基金（国際教育事業支援分）	2,000,000
国際教育支援基金（国際教育交流支援分）	25,034,000
大学史編纂事業	300,000
ペルシア関連イベント開催（書道教室ほか）	1,929,180
合計	41,362,345

※新型コロナウイルス感染症に係る緊急無利子貸与奨学金、学生の学業・課外活動助成については、別途調整中

東京外国語大学総務企画課基金室
〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1
TEL : 042-330-5126 FAX : 042-330-5140
E-mail : tufs-fund@tufs.ac.jp
URL : <http://tufs-fund.jp/>